

「古山門（太子堂）内の聖徳太子像並び厨子修復」ご寄付のお願い（お知らせ）

日頃より、当寺の護持発展のためにご尽力を賜り、心より感謝御礼申し上げます。

さて、この度、住職、副住職個人により、七年から十年計画にて、毘沙門堂境内の古山門内に祀られております聖徳太子像、白山権現像、愛染明王像の修復を発願致しました。

古山門（太子堂）は、今の仁王門（山門）の位置にあったものが、現仁王門建立にあたり、現在地に文政九年に移されました。その後、屋根の修復などを経ておりますが、ほぼ建立当時の状態を残しており、現毘沙門堂境内では一番古い建造であり、古くから千手院が維持を保って参りました。その古山門内で祀られ、多くの方々からの信仰を得てきた御尊像類も、戦時中の雨漏りや害虫等からの被害を受け、相当な痛みが生じております。

また、長い歴史と信仰を尊重した修復をするためには、多くの浄財と時間をかけた文化財保存の手法が必要になります。その第一弾として左記の計画にて、聖徳太子像と御厨子の修復に取りかかります。

本年はお檀家の皆様に護持費の増額をお願いしたばかりでございます。この度は、住職と副住職個人の発願であり、お檀家としての勤めではございませんが、もし当趣旨へのご賛同、ご信心をいただけたら、何卒ご寄付ご助力を賜り、歴史ある御尊像を、ご一緒に後世へ伝えていただきたくお願いを申し上げます。

九 拜

記

一、修復する尊像

木造聖徳太子立像一軀・台座一基・厨子一基
（台座裏に天保三年「一八三二」千手院快尊代、三条裏館の仏師による制作との銘文あり）

一、損傷内容

膠彩色の剥離剥落、持物の亡失、他

一、修復方針

御像の歴史を尊重した文化財としての修復を行う

一、修復費用

約百二十万円

一、費用調達

住職、副住職より百万円

檀信徒より寄付二十万円（一口 一万円）（不足時、副住職拠出）

台座裏に寄付人名を墨書した桧の修復銘札を納入し、後世に

記録を残します

一、修復者

仏像文化財修復工房 松岡 誠一 氏

（県内外の多くの文化財修復の実績があります）

一、期間

平成二十八年三月以降

*ご賛同、ご信心いただける方は、千手院までお申し付けください。

尚、先述のように、あくまで住職、副住職個人の発願であり、寺の活動の一環としてのお知らせです。決して無理をなさらぬようお願い申し上げます。

*補足

白山権現神椅像・厨子修復は平成三十一年度予定（修復費用 約百六十万円予定）

愛染明王像・厨子修復は平成三十四年度予定（修復費用 約二百十万円予定）